

発達障害者が大学で学ぶということ ～多様性を生み出す現場の葛藤から考える～

日時 2015年12月23日(水・祝)10:00～17:00
場所 神戸大学発達科学部大会議室
対象 障害学生支援に関心のある学生、研究者、一般
参加費 無料

話題提供者

桶谷文哲 (富山大学学生支援センター)
金 鐘敏 (韓国ナザレ大学自立統合研究所)
上村 明 (大阪教育大学総務企画課)
韓国ナザレ大学の発達障害学生
文 龍洙 (ソウル市立知的障碍人福祉館)
金丸彰寿 (神戸大学人間発達環境学研究科)



「障害者差別解消法」成立を契機に、大学における障害学生支援の議論と実践に注目が集まっています。神戸大学でも、この秋から障害学生支援コーディネーターが配置され、支援システム構築の一步を踏み出しました。

今回の企画では、障害のある人たちが大学で学ぶ機会にアクセスすることが、大学教育全体にポジティブな影響を与える可能性を探ります。そもそも大学を含む障害学生支援の現場においては、これまで可視化されにくかった諸課題が生起しています。その課題を探ることで、様々な人間の多様性を豊かにする大学教育のあり方を考えていきたいという発想から、本セミナーは企画されました。

こうした可能性を探るために、発達障害学生との対話を大切にしながら支援を展開している、実績のある日韓の大学の取り組み、及びその大学で学んだ発達障害学生の経験に焦点を当てます。

韓国ナザレ大学

忠清南道の天安市にある私立大学です。古くから障害学生支援に取り組んでおり、国内随一の先進校として国内外から注目を集めています。全学生の約7%が障害学生で、知的障害学生のための特別なコースが設置されている点でもユニークな大学です。神戸大学人間発達環境学研究科と協定関係にあり、毎年活発な研究・教育交流を行っています。

富山大学学生支援センター

このセンターには、アクセシビリティ・コミュニケーション支援室が設置され、さらにその中にあるトータルコミュニケーション支援部門があります。2007年から運用しているこの部門では、すべての学生の「社会的コミュニケーションの問題や困難さ」に焦点を当てた包括的な支援、教職員や保護者への支援を行っています。